

[019]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

<https://hdl.handle.net/2324/2230274>

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 19, pp.1-, 2014-03. 九州大学ビジネス・ス
クール
バージョン：
権利関係：



編集発行▶九州大学ビジネス・スクール 担当▶QBS事務局 住所▶〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 電話▶092-642-4278
 メールアドレス▶bs@econ.kyushu-u.ac.jp f▶facebook.com/QBS.MBA

アジア特集号(第2弾)

QBS短期交換留学生による最終報告会

本年度留学生サポーターリーダーを務めておりました、11期生の濱崎と申します。2013年9月末からQBSへ留学された、中国及びタイからの留学生12名をQBS学生14名体制でサポートしてまいりました。サポーターの主な活動として、寮への入居や市役所の手続き、野外活動として歓迎バーベキュー会やバスツアー等の企画運営をしてきました。授業においては、留学生とQBS学生の関係が日を重ねるごとに深まり、それぞれの考え方や文化の違いから新たなダイバーシティを築けたと考えております。2月8日に開催された最終報告会では、留学生の一人一人が日本留学で学んだ事や感じた事について、プレゼンテーション形式で発表が行われ、中には日本語で発表する留学生もいました。福岡へ到着したばかりの時は、「こんにちは」や「ありがとうございます」程度の日本語しか話せなかったにもかかわらず、日本語で最終発表するまで成長した事は、彼らの努力の結果であり、私自身も大変嬉しく思っております。最終発表会後のお別れ会には、留学生全員と先生方並びに数多くのQBS学生に参加いただき、留学生生活を振り返りながら最後の時を楽しみました。その際、別れを惜しみ、涙する留学生もいて、福岡の留学生活に満足してもらえたと感じております。来年度以降もQBSへ多くの留学生を受け入れて、本年度と同様に切磋琢磨できる環境になる事を願っております。

濱崎 優磨(11期生)



南京大学ビジネススクールとQBSの交流事業

南京大学ビジネススクールの一行が、2月23日(日)～3月3日(月)の日程で福岡に来日し、QBSではそのうち2月24日～3月1日の約1週間これを受け入れて様々なプログラムを提供しました。蔣春燕教授と李晶先生が南京大学ビジネススクールのMBA学生18名を引率し、QBSの短期交換留学生もこれに数名参加することとなりました。

各日とも午前中には九州大学経済学部棟209教室で講義を行いました。月曜日には村藤が、「日本の製造業についての経営環境」、火曜日にはNECの岡田顧問が、「アメリカ経営の日本経営や中国経営との違い」、水曜日にはQBS教員OBで現在は南京大学の客員教授でもある出頭先生が「日本の製造業にとっての国際マーケティング」、金曜日には高田准教授が「日本企業の新規事業経営」を講義してグループワークを行いました。土曜日には参天製薬の財務経理部長である古山氏を迎えて「M&Aと日本企業経営」を講義していただきました。

午後のプログラムとしては、企業訪問、工場・農業訪問や交流セッションを行いました。月曜日には共創館で九経連・同友会等の九州のヤング・エグゼクティブと交流を行い、麻生泰九経連会長の挨拶から始まり、厳逸文氏の基調講演の後には製造・金融不動産・サービス産業に分かれてのグループ・ディスカッションというプログラムでした。火曜日にはTOTOの衛陶工場を見学し、水曜日にはトヨタがジャスト・イン・タイム生産を行っている若宮のレクサス工場を見学しました。木曜日には基山町で、ビニールハウスのアスパラとイチゴ栽培を見学しました。TOTOにおいてはQBS1期生の宮野さん、トヨタにおいてはQBS短期エグゼクティブ・プログラム1期生の杉山さん・2期の原田さん、基山町においてはQBS6期生の寺崎さん・10期生の梅下さんにお世話になりました。最終日である3月1日の土曜の午後にはQBSの在校生やQBS修了生組織のQANのメンバーとビジネスプラン・コンテストを行い、夕方にはファカルティークラブで交流パーティーをするなど、大変充実した一週間となりました。

村藤 功(企業財務、企業価値創造とM&A)



御社の「グローバル人材」育成にQBSを活用してみませんか？

現在、国を挙げて「グローバル人材育成」の必要性が叫ばれています。「グローバル人材育成」と一言で言っても、従業員を海外に派遣するためには、現地での活動拠点の確保が必要です。海外に派遣した場合のトレーニング・プログラムの開発など、実は様々なリソースや時間が必要となります。

QBSでは、2年次前期に交換留学の制度を利用して、アジアの提携ビジネス・スクールに半年間留学することが可能です。この場合、原則として海外での学費は免除、また、住まいも大学の寮が提供されるなど、リーズナブルな費用での滞在が可能です。

これまでも、こうした狙いで従業員をQBSに派遣し、その中でアジアのビジネス・スクールへの交換留学によって現地でのビジネス展開の下準備を行い、QBS修了後は海外拠点でビジネスの主要な役割を担うといったケースがあります。

詳しくはQBS教員が御社にご説明に伺います。お問い合わせはQBS事務局(bs@econ.kyushu-u.ac.jp)まで。

ホームページ▶<http://qbs.kyushu-u.ac.jp/> f▶facebook.com/QBS.MBA

QBS教員紹介

「産業と政策」を担当している実績です。

みなさんは、携帯電話を使って「パケ詰まり」という現象を経験したことはありませんか？あるいは、御自宅でYouTubeやニコニコ動画を視聴していて、突然画面がフリーズしたり、ブラウザが突然閉じてしまったりしたことはありませんか？これはインターネットを多数のユーザーが同時に利用した結果、ネットワーク上で混雑がおこっていることを意味します。混雑発生は、ネットワークのキャパシティを越える需要が発生したため、利用を望む人全員を満足させるだけの容量資源がないことに他なりません。こうしたネット混雑が発生すると、広告モデルで収益を得ているコンテンツ事業者は大変困ってしまいます。一方、通信容量をコントロールしてインターネット接続サービスを提供するプロバイダにとってはビジネスチャンス到来です。プロバイダを切り替えるというのは固定ブロードバンドの場合もモバイルブロードバンドの場合もかなり面倒な場合（←このことを経済学ではスイッチングコストが高い状況と呼びます）がありますから、一定の限度であれば、プロバイダはユーザー＝視聴者を自社の資産のように扱うことができます。つまり、プロバイダは、自社の抱える視聴者、つまり広告サービスの儲けの源泉である視聴率を、希少性のあるネットワーク容量の分配を通じてコンテンツ事業者に与える力を持つことになります。視聴者の観点からすれば、自分が楽しめるコンテンツの種類をプロバイダが決定する力を持っていることになります。昨今、アメリカやEUといったインターネット先進国で話題となっているネットワーク中立性の問題というのは、インターネットの可能性を支配しかねないプロバイダの力をどうやってコントロールするのか、あるいは、そもそもコントロールすることが望ましいのかをめぐる政策上の問題です。

インターネットの本質はボーダレスであることなので、欧米で盛り上がっているこの問題は日本のネット業界にも大きなインパクトをもたらすはずなのですが、同じくインターネットの先進国である日本では未だあまり議論の俎上に載せられることがありません。まあ、そのうち話題になるだろうと思って地道に研究を続ける毎日です。

実績 寿也(産業と政策)



福北交流懇談会 開催

QBSを卒業して2年が経過しました。去年の9月に平成25年度小規模事業者活性化補助事業に採択されたことをきっかけに、歯科関係の経営コンサルティング、人材育成支援、セミナー企画・運営等新規事業として始めました。そんな中、2013年11月22日に行われた福北交流懇談会では最先端の虫歯予防についてお話をさせていただきました。

福北交流懇談会は福岡の企業と北九州の企業が交流する会で、もちろん異業種の方ばかりですが、自身の健康についてのことで、真剣に聞いていただきました。

会が終わった後の親睦会では、多くの方々に歯についての質問を受け、患者さんの気持ちに触れる大切な時間を得ることができました。

私はこれから歯科業界の中で仕事を展開していくつもりですが、時にはこうして異業種の集まりに飛び込むことで、普段と全く別の視点から物事を見ることができると感じました。これからも業界の中ばかりに留まらず、いろんなところに出ていくことで、思わぬ発見や想像を超えた展開が待ち受けているのかもしれない。

そんな意味で、QBSを修了できたことにとても感謝しております。今回はこのような貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

田苗 真代(8期生)



QBS BOOKレビュー この1冊

『1からのマーケティング分析』
編集者：恩蔵直人、富田健司 発行所：碩学舎
発行元：中央経済社

マーケティングの世界は日々、ダイナミックに変化している。とりわけ、2000年以降でとくに大きく様変わりしたのはマーケティング・リサーチの分野である。以前は専門家が調査結果をもとに難解なプログラムをコンピューターにインプットすることで、貴重なインプリケーションを得ていた。しかしながら、今日ではエクセルと同じくらい扱いやすい統計ソフトを利用すれば、マーケティングにはじめて触れる学部生であっても、卒業までに一定水準のマーケティング・リサーチのスキルをマスターすることができる。

本書は、そのような時代の変化を捉えて出版されたマーケティング・リサーチの入門書である。前半では、マーケティング・リサーチの重要性にはじまり、サンプリング手法や基本的な統計用語（平均、分散、標準偏差など）の説明がなされる。中盤では、基本的なマーケティング手法について解説される。相関分析、 χ^2 検定、分散分析、そして回帰分析などが取り上げられる。後半では、コンジョイント分析や共分散構造分析といった一歩踏み込んだ分析手法について記されている。

QBSでは、プロジェクト論文指導時に、マーケティング・リサーチについてお話をしたいと考えているが、お勤め先でマーケティング・リサーチや消費者調査の設計を求められた方は、誤った調査設計を構築する、あるいは、結論を誤解しないためにも、まずは本書を読まれることをお勧めしたい。

岩下 仁(マーケティング戦略、国際マーケティング)



大連におけるQNIES Re-unionと大連入試相談会

QBSではプログラムを終えて帰国した、交換留学修了生との絆をより強固にするため、新たにQNIES (QBS Network for International Exchange Students)を立ち上げましたが、その具体的な活動の一環として、2月13日に中国大連市においてReunionミーティングを開催しました。当日は国際連携担当の村藤教授と私(平松)が出向き、参加修了生にQNIES立ち上げの趣旨やQNIESのコミュニケーション円滑化のために開始したQNIES Mailing Listにつき説明、参加者とネットワーク強化のための議論を行いました。

当日は未だ旧正月期間中であること等から、それほど多くの参加者ではありませんでしたが、Bu Pengyuさんと、瀋陽から駆けつけてくれたLi Linlinさんに、それぞれ大連地区のエリア・コーディネーター、副コーディネーター(瀋陽地区担当)に就任してもらい、今後のネットワーク活性化に協力してもらうことになりました。

また、翌14日には、大連入試を希望する学生のための相談会を開催、そこでは今秋以降の受験を考えている候補者が、熱心にQBSについての説明に耳を傾けていました。

平松 拓(ファイナンシャル・マネジメント、マネジメント・コントロール)



QBS短期交換留學生の企業訪問

東日本大震災後、資源の開発や電力の供給や食品の安全性などの課題が今まで以上に注目されるようになりました。我々留学生もそれらの課題に関心を持ち、福岡県の北九州エコタウン、新小倉発電所、日本水産株式会社を見学しました。

まず、北九州エコタウンでは、感染性廃棄物の再資源化について、医療用具の破砕、高周波処理、分別、固形燃料の製造過程の説明を詳しく聞きました。それに、OA機器の手分解作業を見ながら、リサイクルに関するQ&Aも行われました。北九州エコタウンの循環型社会形成の推進における事業展開に強く感心しました。

そして、新小倉発電所で、東日本大震災による電気供給事情と、スタッフの作業現場も案内してもらいました。震災の影響と節電の重要性が分かりました。最後に、日本水産株式会社で、日本の漁業の発展と日本水産の開発した商品について説明を聞きました。ニッスイの安心でおいしい食品への「こだわり」が深く印象付けられました。

東日本大震災によって、一層深刻になった資源の開発や電力の供給や食品の安全性などの課題を解決するには、上記のような、社会に貢献できることを検討しながら事業展開をする企業が引き続き努力することが必要です。事業の推進によっていかに社会における課題を解決できるか、社会に貢献できるか、ということが我々の今後の課題でもあります。

唐 瑞霞(10期生)



修了生紹介



秦野 久実子さん(7期生)

所属・株式会社日本政策金融公庫

QBSで得たものは、体系的かつ実践的な経営全般の知識のみならず、①課題に対して「本当にそうなの？」と突詰めて考え抜く姿勢、②上海交通大學交換留学を通じた国際感覚、③利害関係者の同期、各所に存在する心強いOBOG、在学中と変わらぬ情熱を注いで下さる先生方の存在です。

アジアの玄関口と言われて久しい福岡が、どうすればより活発な商業的拠点になるのかという問題意識を持ちQBSに入学しました。試行錯誤の許されるQBSで、自らの仮説→検証を何度も繰り返す、事象を大局的に俯瞰しようと取組んだ経験は、仕事や様々な場面で大いに役立っています。

幸運な事に現在でもOBOG有志の勉強会や星野ゼミ研究会という場に関わる事ができ、刻一刻と変化する環境の中で岐路に立った時に我を見失うことなく前進できるのは、叱咤激励いつも背中を押してくれる仲間や先生方の存在であり、QBSでの学びが一つの拠所となっているからだと思っています。

今後も学ぶことを諦めず、考え抜くことを止めず、地域活性化の一役を担えるよう、日々精進して参りたいと思います。



福嶋 真一さん(9期生)

所属・日本交通産業グループ代表取締役

QBS入学の目的は、トップマネジメントとしてのビジネスセンスの練磨、マネジメントスキルの向上、アントレプレナーシップの習得でした。1年生前期の途中にプロジェクト演習を履修しないと決断し、QREC科目をうまく組み合わせ60単位を修得。入学時の計画よりも広範囲な分野を学習でき、視野拡大には効果的でした。

修了後も教員、同期生、関係者の皆様に何かとお気にかけていただいています。昨年11月には五十嵐准教授からお誘いを受け、世界規模で開催された起業体験プログラムStartup Weekend Fukuokaにメンターとして参加させていただきました。起業を目指す若者の情熱とアイデアに出会う貴重な経験を行うことができ、大変感謝いたしております。

現在はQBSで得た理論、思考法をもとに当社のマネジメントの改善に取り組んでいます。社員の意識の変化や経営指標の向上など徐々に成果が現れ始めました。次の目標は新たな価値と事業の創造です。そのため、社会環境に対する観察力や問題意識を常に持つこと、既存の視点に囚われず異なる視点で物事を考えること、を意識しています。

QBS10期生の旅立ち

3月22日(土)にQBSの10回目の修了式が九州大学国際ホールにて行われました。修了式には10期生やその家族など100名近くが出席し、山本健児経済学部長より学位記が授与されました。

第7回QBSフォーラム開催

3月2日(日)に九州大学西新プラザで第7回QBSフォーラム(主催:QBS学生会、後援:QBS、QAN(QBS Alumni Network))が開催されました。QBSフォーラムは4期生有志により発足し、学業の集大成であるプロジェクト論文について関係者の方々に感謝の意味を込めて報告し、又その内容をディスカッションすることを目的としております。

今回は10名が発表しましたが、テーマはビジネスプラン、産業分析、イノベーションプロセスの検証等多岐に渡りました。一年間紆余曲折を経て導き出した結果には各自の「魂」が宿っており、どの発表も聞き応えのあるものばかりでした。会場からは鋭い質問が出て、有意義なディスカッションを行うことも出来ました。

又、発表後にはQANの支援による懇親会も催されました。修了生、現役の10・11期生、この4月に入学する12期生の交流の場となり、QBSの期を越えた「縦」のつながりの素晴らしさを感じる時間となりました。

最後に、我々10期生の修学に当り多くの関係者の方々にご支援、ご協力を賜ったことを厚く御礼申し上げます。有難うございました。

足立 憲正(10期生)



QAN便り

QAN便りでは、今回よりQBS修了生の会社紹介を行っていきます。今回登場いただくのは9期生の日高美治さんです。

日高さんは、キューハイテック㈱と言う、福岡市内で住宅設備関連の会社を営まれておられます。

Q)どうしてQBSへ行こうと思いましたか。

A)入学試験の面談の際に申し上げたのですが、「経営者の器以上に会社は成長・発展しない。小規模経営者としていままでも積極的に学んで来たつもりでしたが、会社経営をより良くするためには、さらに多面的な思考力を身につけたほうがよい。」という思いでした。

Q)QBSで学んだ点でよかったところはどこでしょうか

A)「論理的思考力」です。会社経営を長くやっていると勘と経験と度胸に偏りがちになっている自分自身に気がついていました。そこに論理性を加える事で幅が広がると思いました。

Q)QBSで学んだことを自社にどのように活かしていますか

A)我が社は工事を主体に事業を行っている会社ですので、「人」が財産です。様々な手法で人材育成を積極的に行うことで他社との競争優位性をつけようと努力しています。その取組み一つひとつがロジカルな体系図としてわかりやすくなりました。何のためにこの事業を行っているのかという目的が論理的で社員にわかりやすくなっています。

Q)御社の経営ビジョンをお聞かせください

A)「福岡の街に無くてはならない会社になろう!」です。QBSでの私の体験は本当にかげがえのない2年間でした。いい先生、いい仲間といい環境で学ぶことができました。この経験を活かしてアジアの玄関口である福岡の街に無くてはならない会社をめざして頑張ります。

QAN会長 宣 虎長(6期生)

QBS修了生の皆様へ ~リカレント聴講生受付のご案内~

昨年度から、入学料の不徴収や履修済み科目を再び履修できる等、リカレント聴講制度が大変利用しやすくなっています!また、近年新しい科目の開講も相次いでいます。シラバスは九大博多駅オフィスでも閲覧可能です。

平成26年度の聴講を希望される方は、申込期間中に九州大学貝塚地区教務課学生第四係で手続きを行ってください。

この機会にぜひ、リカレント聴講制度を利用して「学び直し」しませんか?
詳しくはQBSのHPをご覧ください。

前期申込期間:平成26年3月14日(金)~3月24日(月)

後期申込期間:平成26年9月19日(金)~9月29日(月)

在校生紹介



王旻月さん(11期生)

私は中国の大学を卒業してようやく日本に来ることが出来た。福岡の日本語学校で一年間勉強した後、QBSへの入学を決意した。大学を卒業したばかりの学生がMBAを学ぶなんて、と反対する声も聞こえた。だけど、自分の人生の中で一番迷う時期に、「QBSへの入学」という第一歩を踏み出すことを自分で決めた。日本語以外、経営学についての専門知識がほとんどない私は、入学前に非常にきつい独学の日々を続けた。やっとQBSに合格することができ、独学では足りない自分の専門知識や理解力の限界を非常に痛感した。そして、QBSに入学し、一年間ハードな課題をこなし、辛い毎日を送ったが、今は大満足だ。各分野の専門家の先生方と直接議論できるし、自分の知識への欲望や疑問をすべて瞬時に解決できる。清々しい毎日だ。留学生としては、優しい事務の方々、素晴らしい同級生と先輩たち、信頼できる先生方から、多方面で応援をいただき、最高の留学生活を送っている。これは何より嬉しいことだ。今の自分の目標は、世界の大舞台で活躍すること。大きな夢を持つ私は、人生で一番迷う時期にQBSに出会った。ここで出会ったすべての方に心から「ありがとう」と叫びたい。



笠 清太さん(11期生)

所属▶株式会社三好不動産 執行役員

QBSに入学して早一年、早いような短いような折り返し地点です。入学の動機は、複数のQBS修了生との出会いでした。ちょうどその時期は、上海事務所開設責任者になったり、新規事業会社の担当をしたりと、複数の新しい課題に取り組んでいました。新しいことを取り組む中では、様々な課題点が発生します。この課題解決能力は、①経験値と②論理的思考能力ではないかと考えています。この一年間では、ビジネスマネジメント上の論理的思考の基礎となる財務・マーケティング・組織マネジメント・知財など、幅広い知識を自分なりに習得できたのではないかと思います。また、QBSでは、各教科で豊富な事例学習を行います。したがって、経験値の充足にも役立っています。そしてもう一つの学びは、クラスメイトとの出会いです。それぞれ、入学の目的や学習目標は違いますが、強い志を持っているという共通点があります。

クラスメイトとのディスカッションは、時間が経つのを忘れるほど、新たなビジネス上のヒントとなる話題に満ちています。この出会いにも感謝しております。さて、順調にいけばあと一年間の学生生活ですが、更なるスキルアップを通して、勤務先でも新たな役割を果たせるように精進できればと思っています。

編集発行/九州大学ビジネス・スクール
担当/QBS事務局
住所/〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電話/092-642-4278
メールアドレス/bs@econ.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL.092-642-4167
ホームページ <http://qbs.kyushu-u.ac.jp/>
facebook.com/QBS.MBA



QBS

九州大学ビジネス・スクール
Kyushu University Business School